

企業ニュース 大阪有機化学工業

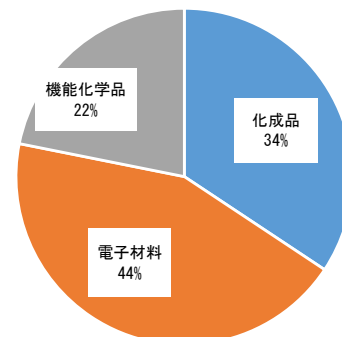
(東証1部 : 4187) <https://www.ooc.co.jp/>

作成者 : 兵藤三郎

半導体フォトレジスト材料などを製造

1946年、光学レンズ用接着剤「カナダバルサム」などの製造販売を目的に設立。特殊アクリル酸エステルの製造に取り組み、現在は同分野でのリーディングカンパニーとなっている。汎用アクリル酸エステルは繊維や塗料などの主原料となるが、特殊アクリル酸エステルは性質や機能を高めるための添加剤として用いられる。豊富なラインアップを持ち、自動車用トップコート、インクジェット原料、ディスプレイ材料、化粧品原料、半導体フォトレジスト材料など顧客の多様なニーズに答えている。足元では、半導体レジストの原料販売が好調に推移している電子材料がけん引し、業績は拡大している。現在取り組んでいる半導体関連材料の生産能力増強投資は22. 11期に稼働、供給能力は約40%増強される。5月21日には、さらなる投資計画を発表、2023年4月に稼働予定で、供給能力を約30%増強する。

◇20. 11期売上高構成比



(出所) 大阪有機化学工業資料より
CAM作成

半導体レジスト原料の旺盛な需要が業績をけん引

21. 11期・第2四半期(12-5月)の連結業績は売上高が169億円、前年同期比18%増、営業利益が28億円、同19%増。新型コロナ影響は残るが、工業生産は回復基調で、テレワークの浸透や5Gへの移行などを追い風とした電子材料を中心に全セグメントで増収、増益。電子材料は半導体関連材料が伸長。化成品は自動車の生産回復で自動車塗料向け製品の需要が回復した。機能化学品は化粧品原料の回復傾向に加え、2月に事業譲受した頭髪化粧品用アクリル樹脂事業も寄与した。ただし、5月21日に公表された業績予想(期初計画に対し上方修正した予想値)には若干届かなかった。

21. 11期連結業績の会社計画は、売上高が340億円、前期比19%増、営業利益が58億円、同31%増。半導体関連材料の需要は旺盛で、下期にはすでに実施済みの設備投資効果が寄与してくる見込み。自動車生産台数や化粧品需要の回復もあり、事業環境は好転している。業績進捗度からも通期計画に対し順調に進捗している模様。

[株価動向・投資判断]

半導体レジスト原料の旺盛な需要が業績をけん引。生産能力増強投資も継続しており、中期的に成長が期待できる銘柄であろう。

<4187 大有機 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19. 11	28, 638 (▲ 2)	3, 663 (0)	3, 833 (▲ 3)	3, 035 (13)	137. 1	40. 00
20. 11	28, 681 (0)	4, 442 (21)	4, 612 (20)	3, 313 (9)	149. 6	46. 00
21. 11 予	34, 000 (19)	5, 800 (31)	6, 100 (32)	4, 400 (33)	198. 6	50. 00



[主要株価指標] (売買単位 : 100株)	
株価 (2021/7/9)	3, 615 円
年初来高値 (高値日)	4, 685 円 (21/4/8)
同 安値 (安値日)	3, 185 円 (21/1/4)
予想 P E R (21. 11 予)	18. 2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1, 656. 9 円
P B R	2. 18 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金年50. 00円)	1. 38 %
R O E (20. 11)	9. 9 %
発行済み株式数	2, 241 万株